

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1190200475		
法人名	株式会社千雅		
事業所名	グループホームはとがやの杜		
所在地	埼玉県川口市桜町-5-28		
自己評価作成日	令和 5 年 2 月 10 日	評価結果市町村受理日	令和 5 年 4 月 14 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所		
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル1階		
訪問調査日	令和 5 年 3 月 16 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

画一的なサービスだけではなく、個人の意思や趣向を尊重し、その人らしい生活が送れるよう工夫している。
 また、日ごろからご入居者様のお話に傾聴し、日々安心して穏やかに生活していただけるよう努力している。
 昨今の外出が難しい環境でも、少しでも生き生きと生活していただくため、ベランダで草花を育てるなど、気分転換出来るようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍のため運営推進会議は書面開催としているが、事前に各委員へ手紙や電話で要望や意見等を聞くようにしており、議事録では意見等を紹介している。家族向けに、2カ月毎で発行している「家族への便り」では、近場のお店やお寺への散歩の様子等を写真で知らせ、家族からも喜ばれている。コロナ期での制限はあるが、家族や友人の来訪を勧めており、来訪時には一緒に散歩をするなど、利用者本位であり、コミュニケーションが取れている。地域貢献の意も含め、敷地周辺の落ち葉やゴミ拾いを職員がおこなっており、感謝の声を聞くこともある。年間の研修計画を立て、テーマを決めた後は、担当職員が資料集めから講師役までこなすことで意識の高揚にも繋がっている。衛生環境と整理整頓を大切と考える事業所方針は、目指す介護の基本でもある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は常に職員たちが見やすい位置に掲示している。 毎月の職員会議で確認し共有している。	法人理念をフロアにも掲げ、パーソン・センタード・ケアを大切にしたい「介護とは人間の尊厳を守ること」を徹底している。職員同士で気付きを注意し合っており、余裕のあるケアが出来ている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩の際に近隣の店を利用して買い物したり、挨拶したりしている。コロナ禍が収束したら、また地域のボランティアの方を招待し、演奏会などを再開する予定である。	コロナ禍で機会も薄くなったが、近隣の人からミカンや柿を頂くこともある。自治会に加入し、自治会長が回覧板を届けてくれるので情報交換も出来ている。敷地の周りの落ち葉やゴミ拾いの掃除を実践している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍で積極的の交流がなかなかできない状況ではあるが、散歩の途中にすれ違った地元の方と挨拶をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の中でも2ヶ月に一度開催している。会議内容など書面で郵送し、電話等で話し合いや質問の場を設けている。いただいたご意見を職員会議などで検討して、サービス向上に活かしている。	行政とも相談し、2カ月毎の書面開催としている。事前に委員へ電話や手紙で意見を伺っており、「お任せします」の回答が多い。市役所や地域包括支援センター、町会長、一部の家族へ議事録を提出している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営などについての疑問は、積極的に市役所の担当者と連絡を取り、いろいろ相談してもらっている。より一層信頼関係をつけるように努力している。	運営推進会議の議事録や行政報告は、直接窓口での手渡しとしている。行政からのメールで、オンライン研修の案内が来ており、参加するようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し、研修を定期的に行っており、身体拘束について全職員を理解している。現在は行っていないが、必要と思われる場合も必要性があるかどうか職員集まって会議で検討してから、ご家族の同意をいただいてから行うこととしている。	委員会は3カ月毎に開催している。不適切ケア研修は毎月の実施であり、テーマだけを決め、職員が持ち回りで講師役としている。前回は、スピーチロックを取り上げ、具体的な事例をもって、皆で考え話し合う場を作っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置し、定期的に研修を行っており、従業員同士でお互いの行動を注意し、虐待防止に努めている。虐待と思われる行為が見かけた場合は直ぐに管理者へ報告するよう周知している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の中に後見人制度を利用している方がいるため、成年後見制度や日常生活自立支援事業については日常的に学ぶ機会が多い。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行い、契約内容が理解した上で契約を交わしている。不明点や疑問点がある場合は、いつでもお電話頂けるようお伝えしている。内容変更など生じた場合は必ず書面で郵送し、ご家族のご了解をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に一度家族懇談会を行い、ご家族の意見をお伺いしている。コロナ禍でも会議内容を書面で郵送し、電話等で話し合いや質問の場を設けている。ご家族や後見人からのご意見は職員会議などで周知し、サービスの向上に活かしている。	コロナ禍以前は、敬老会後に家族会を実施しており、多くの参加があった。現在は、運営推進会議に先立ち、電話や手紙で意見を貰っている。今の状態への質問や、特別食での好みなどを聞くこともある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を月一度に開催しており、職員が意見を言う機会を設けている。管理者と職員で積極的に議論を行い、内容を実際の運営に反映している。	定例の職員会議や、日々の業務の中でも意見は出ている。コロナ禍で運動不足解消のため、室内自転車の購入への提案や、広いペランダを利用してのプランター花植え等の意見を受け実践している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者と職員は日頃話し合い機会を設けており、得た情報を職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月職員が交代で施設内研修を行っている。内容はテーマに沿って職員個々で決め、受ける側と行う側の両方が学びを得る場となっている。また管理者が職員へ資格試験や研修の情報を随時提供している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム連絡会やケアマネ連絡会が開かれた場合は出席し、地域の同業者と意見交換を行っている。意見交換で得た情報は施設運営に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入初期は特にご本人の話を傾聴し、事前アセスメントにより本人の生活習慣や趣味など把握して、信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入前後はご家族も不安が強いため、機会を作って傾聴し、不安を感じたポイントを把握して、特に丁寧に説明している。ご家族に出来るだけご安心いただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前のアセスメントでご本人やご家族から情報を収集して、課題や目標にあう適切なサービスが提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除、洗濯、食事の支度など、ご本人の状態を応じてできることはご自身でいただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	2ヶ月に1度、ご家族への手紙で近況報告を郵送し、利用者様の状態を把握していただいている。また、こまめにご家族と連絡を取り合っており、協力関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で訪問場所が制限されたため、関係が途切れないようにお散歩など可能な範囲で会う機会をつくり、またタブレットを利用してビデオ通話など使って関係を続けるように努力している。	少なくともはなつたが知人の来訪があり、一緒に近隣を散歩され、表情も柔らかくなっている。馴染のひと携帯電話で話される人もある。家族との通院機会では、一緒に食事をされることもあり、推奨している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日全員参加のレクリエーションを行い、職員が入居者様それぞれにお話しを振って利用者同士が会話できる機会を作っている。また共同作業が必要なイベントやレクリエーションを行い、利用者同士の関係構築に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後に、身体状態や利用中の様子に尋ねられた場合、過去の記録を調べてできる限り詳細にお伝えしている。また、利用中の写真などご家族へ渡している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様個々のお話を定期的に傾聴し、希望や意向を把握し、介護計画作成に活かしている。	認知症の進んだ人でも、しっかりと寄り添い傾聴することで知ること多い。新しい気付きなどは日報に記録し、申し送りでも周知し共有している。表現の困難な人も、表情や仕草から分かることもある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族から生活歴や生活習慣を伺い、サービスの提供に活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日2回の申し送りを行い、一人一人の現状を共有し、変化などあった場合は、ケース記録にしっかり残し周知している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に担当者会議を開き、職員から得た情報を共有している。またその情報は介護計画の見直しに活かしている。	6カ月毎の見直しとし、状態変化等を受けての担当者会議をおこなっている。居室担当者を個々に2名置き、モニタリング結果を計画作成担当が集約している。家族や主治医の意見を入れての介護計画となる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ごとに日々の様子を介護日誌に記録し、職員間で情報共有をしている。また、それを元に介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様個々のニーズや身体状況に合わせて、ベランダで花や野菜を作っている。またコロナ禍で外出機会が減ったため、エアロバイクを導入し足腰が鍛えるサービスを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で地域との関わり減ったため、近隣の商店で買い物や、近所のお寺でお参りにするなど、できる範囲豊かな暮らしを楽しんでいただけるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の意向を確認して、今までのかかりつけ医を継続することを決めるようにしている。また、月に2回医師が往診に来ていただき適切な支援を受けるように努めている。	往診医は月2回の来訪があり、看護師の週1回の健康管理もある。ともに夜間の連絡も可能である。慢性病によるかかりつけ医への通院は家族対応だが、往診医との医療情報交換もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用者様個々の体調の変化など、気になる点があれば看護師に相談するようにしている。また、緊急性が高いと思われる場合は、看護師や往診医と電話相談など行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は入院先の医療機関に情報提供を行い、安心して治療が受けられるように協力している。また、入院中もこまめに連絡を取り合い、退院時期の調整など、早期に退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時重度化した場合の対応や終末期のあり方をご家族に説明し、事業所で対応できること、医療機関などをお願いすることなどご理解をいただいている。	入居時に重度化指針を説明し、医療行為の出来ないことも伝えている。身体変化があれば、早めに家族への説明をしているが、コロナ禍では電話相談となった。持病を持ちつつ終末期を自宅で迎えた人があったが、家族の希望でもあった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応はマニュアル化されており、すべての職員が対応できるようになっている。また、普段から管理者と職員が密に連絡し、緊急時すぐに報告できるような体制となっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防・避難訓練を行い、利用者様と職員共に参加し、避難方法と避難ルートを確認している。	年2回の避難訓練では、夜間を想定しての訓練もある。消防署への通報訓練と避難訓練の他、水消火器での消火訓練を1階の有料老人ホームと合同でおこなっている。各ユニットの倉庫に備蓄品を収めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会話は丁寧語、入室時必ずノックするなど、利用者様一人一人の人格やプライバシーを尊重して対応している。	居室へ入るときにはノックをし、不在の時は確認を取ったうえで、「入りますよ」の声掛けをしている。年間研修計画にも含めており、本社の全体マニュアルでも振り返っている。羞恥心への配慮もなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様の話を傾聴し、思いや希望を表現しやすいように努めている。うまく決められない利用者様に対しても選択肢を提供し、自己決定できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様本人の意向に沿って柔軟に対応している。レクリエーションや入浴などの活動は無理に参加せず、ご希望を取り入れるなど対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみは本人の希望を踏まえて、季節に合わせる物を着ていただいている。また希望があれば、訪問理美容の際、カラーリングなども対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の食の好みを把握し、献立に苦手のメニューがあれば代替食を出し、身体状態によって一口大にカットするなど配慮している。また、盛り付けやテーブルを拭くなど、ご利用者様もできる範囲で協力してもらっている。	食事は楽しみの時間であり、茶碗などの器は見栄えの良いものを揃えている。仕入れは委託先だが、調理は職員が作っており、好みに合わないメニューでは別途のものを提供する工夫もある。出前のお寿司や蕎麦は喜ばれる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事量と水分量を記録し、不足している場合は個別で対応している。また毎月体重を計測して、変化がある場合は往診医と連携して調整を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケア(歯磨き)を行って記録している。また身体状態によって、ご自身でできない場合は職員が協力して一緒に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表に排泄のタイミングを記録、一人一人の排泄パターンを把握している。ご本人の様子によって、排泄を促している。	食事前の誘導や、個々への声掛けの他、職員の提案からヨーグルトやバナナを提供して排泄を促している。日中のオムツ使用者はなく、リハビリパンツで自立に向けている。カンファレンスではパッドの種類等を話し合っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトやバナナなど定期的に摂取していただき、体操や散歩など軽い運動も取り入れ便秘の予防に努めている。また毎日排泄表を確認し、排便がない方に水分を多めに取っていただくなどの対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的の入浴日には決まっているが、ご本人の体調や意思などで日にちをずらすなどの対応をしている。	週2回を基本とし、汚染の時は都度のシャワー浴としている。「今日は熱があるから」等で拒否の人へは、強制はせず翌日として声掛けに工夫がある。ゆず湯はイベントで取り入れ喜ばれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床時間や就寝時間は一律にせず、ご利用者様個々のペースに合わせている。夜間帯眠れない時は話を聞いたり、温かい飲み物を出したりなど、リラックスして入眠いただけるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報を服薬表に添付し、職員がご利用者様ひとりひとりの薬の内容を把握している。症状の変化がある場合、すぐに管理者と看護師へ報告できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎月イベントを行い、季節ごとにリビングルームの飾りを変え、ご利用者様が気分転換できるよう努めている。また、イベントの際にご利用者様の好きな料理を出前などして、より楽しんでいただけるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	日常的に職員付き添い散歩に出ている。季節によって散歩ルートを変更し近隣のお寺や商店を訪ね、楽しんでいただいている。また家族や友人が訪ねて来られ、近所を散歩したりしている。	コロナ禍でも、お天気が許せば散歩に同行している。近場のお店やお寺、桜並木もあり写真撮って個人ファイルへ収め、家族に見て貰っている。家族や友人との散歩も勧めているが、人混みでの会食は避けるようお願いしている。	散歩はコロナ禍でも行っているが、頻度として少なく、運動不足が懸念されている。それを補うために、足漕ぎの出来る室内自転車の購入を進めており、実現できることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理ができる方は自らお金を管理してもらい、買い物など個人の希望に沿って支援している。ご本人が管理できない方は、職員と協力してできるだけ本人の希望に沿って使用できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人への電話や手紙はご希望がある場合、自由にできるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングルームなど共有スペースは毎日掃除、整理整頓している。室温や湿度は利用者様の様子を観察しながら常に調整している。また季節に応じて壁やテーブルに花など飾り、四季を感じながら楽しんでいただいている。	職員は、掃除や整理整頓に熱心で、衛生面にも配慮がある。共用部には、利用者の作品やベランダで育った草花を利用者が切り取り飾ってくれている。椅子やソファを、通路や窓際に置いて、利用者の憩いの場を確保する工夫がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアや廊下、窓のそばにソファや椅子を設置、それぞれお気に入りの場所にいられるように工夫している。またご利用者様同士気軽に会話できるように家具や新聞などをおいて、思い思いに過ごせるように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に置く家具類は、入居時に家で使い慣れたものを持参してもらうように推奨している。また希望があればテレビやラジオなど持参して、部屋で一人で楽しんでいただけるように努めている。	使い慣れた物を持込んでもらうよう、家族の協力もある。テレビを各部屋へ貸与し、ラジオを聞く人もいる。クーラーとベッド、洗面台壁付の棚等が備えてあり、家族写真や自作の人形等を飾り、夫々の空間がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有部分は手すりを取り付けてあり、身体状態によってご自身で移動できるように工夫している。また車椅子の方が安全で移動できるようにスペースを広くとっている。		